

子どもたちに楽しいプログラミング教育を！

団体名●キッズプログラミングアカデミー／代表者名●前田莉子(人間科学部こども学科2年)

はじめに

私たちキッズプログラミングアカデミーは、こども学科の学生が中心となって立ち上げた団体である。2019年度の立ち上げから継続し今年で3年目となった。この1年間プログラミングの出前授業を地域の幼稚園、小学校などに行ってきた。ねらいとして、子どもたちに「できた」という達成感や「楽しい」という感情とともに現在の教育現場で必要とされている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を経験してもらうことである。出前授業では「物事を順序だてて考える論理的思考が発揮される場」、「より良くしようとするプログラミング的思考が発揮される場」を作るために内容を工夫して活動を行った。

活動内容

この1年間プログラミングの出前授業を地域の幼稚園、小学校で実施してきた。今年は活動を能登地域や、中学校こども園や児童館にも広げた。そのため、幼稚園3校(5回)、小学校5校(8回)中学校1校(1回)と活動範囲が広がった。特に能登での活動は泊まりがけで行うことで、1日目の反省点を話し合い内容改善や事前準備、機材のメンテナンスを念入りに行うことができた。また、メンバーの母校と連絡を取り、自分たちの活動を売り込むなど自発的な活動を行うことで普段の授業では学ぶことができない交渉までの段取りや資料作り等を経験することができた。また、出向く先々に合わせ出前授業の内容を変えることで相手側のニーズに応えることの難しさやそれに対応する応用力を身につけることができた。

成果、結果の考察

1年間を通した成果として目に見えるものとして、訪問先としては去年訪問したところ、自分たちで交渉に向かったところの他に、新聞に掲載されたことの影響もあり、途中からの依頼を多く受け、出前授業の機会に恵まれたところだ。多くの機会があったということはそれだけ私たちの活動のねらいを子供達に経験してもらうことができたということだ。ま

た活動準備は出前授業が増えるほど時間も費用もかかるころはあったが、学生たち自身、特に出前授業導入の劇に関しては、活動を重ねるたびに演技力が洗練された。また、質問に対しては、臨機応変な対応や子供たちが次に何を求めるか、何をしたいかを考えて対応ができるようになったと身をもって感じている。

今後の課題、展望

キッズプログラミングアカデミーは来年度もつづけ、新しい機材としてVR体験も入れ込みながら継続し活動を行なっていくことを考えている。

